

セッション紹介文

セッション名：**Microsoft Mathematics** の経済学教育普及を進めるイベント

主催：Microsoft Mathematics の経済学教育普及を進める有志の会（責任者：小川健）

6月18日(土) 午後の部 (15:00～17:00) S2X 教室

主旨：本セッションでは、Windows®用フリーソフトである Microsoft Mathematics®の経済学教育における普及を進めるためのイベント、講習説明・体験会を行う。

日時・場所：2016年（平成28年）6月18日（土）午後 名大・全学教育棟本館2階・S2X

セッション代表者名：小川健（おがわ・たけし）*—専修大学・経済学部・講師

活用履歴：2012-2014年度 広島修道大学・経済科学部講義「コンピュータ経済学Ⅱ」他¹

セッション賛同者名：藤間真（とうま・まこと）—桃山学院大学・経済学部・教授

活用履歴：2015年度～桃山学院大学にてこのソフトを活用した講義・教材を実施中

セッション協力者名：大山亨仁（おおやま・きょうじ）—専修大学・経済学部・3年

※大山君は小川健ゼミのゼミ生で、今回のイベントに協力者としてお越し頂きます。

詳細：実証系とは異なり、近代経済学の理論系においては利用されているソフトがかなり少ないことが知られている。理論系でよく活用されているソフトとしては Mathematica®や Matlab®などがあるが、学部生教育などに使う観点では①有償（しかも多くは高価）で学部生全員に使える環境は整え難い、②利用する上でプログラミングが必要になることが多く、プログラミングに対する耐性が比較的弱い経済学の学部生には敷居が高く使い辛い、③入力した式がすぐ見た目でも反映され難いので、少し式を複雑にただけで扱い切れなくなる、などの観点が懸念される。Scientific Notebook®や Maxima®, MS Excel®など他にも使われているソフトもあるが、それぞれ（④MS Word®との相性が悪い、⑤グラフが見難い等）様々な問題点を抱える。2011年4月に日本語化・フリー化された Microsoft Mathematics® (MS Math) では①～⑤の問題点が全て解消された、高度な関数電卓の形のソフトである。微分・行列・統計代表値の計算、n次・連立方程式の求解、式から直接2-3次元のグラフの描写とアニメーションができる。このMS Mathを利用しての経済学の学部生に基礎理論教育～卒業論文作成、および学部生などへの講義資料の作成への活用における可能性は大いにありながら、殆ど知られていない。そこで、本セッションではMS Mathの経済学教育における活用法における先駆者による講習説明・体験会を行う。

* 連絡先：〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田二丁目1番1号 専修大学・生田校舎9号館7階9710号室
電話：(044)900-7970 (研究室・普段直留守), (090)4255-1796 (携帯), Fax: (044)900-7849 (研究棟共同)
電子メール：takeshi.ogawa.123[at]gmail.com

¹ 活用法執筆事例：小川健(2014)「Microsoft Mathematicsの経済学教育における活用」広島修道大学ひろみらセンター『経済科学研究』（広島修道大学・経済科学部・論集）18(1)pp.165-184 URL: <http://id.nii.ac.jp/1080/00002180/> 他